

# 令和元年度 学校評価シート（自己評価）

令和2年3月

文京学院大学文京幼稚園

## 1. 園の教育目標

- ・誠実 （いきいき元気に遊ぶ子）
- ・勤勉 （いっしょうけんめい頑張る子）
- ・仁愛 （やさしく助け合う子）

## 2. 具体的な目標や計画（令和元年度重点目標）

1. 人とかかわることを通して、“思い合う心”を育む。
2. 自ら考えて遊びに取り組む子を育てる。

## 3. 評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	結果	結果の理由
1 - ①誰にでも笑顔で姿勢を正して挨拶することで、互いに気持ち良く過ごす。	B	教員自身が手本となるよう心掛け、挨拶の心地良さを伝えることでできるようになった。上手に挨拶できたときは言葉にして褒めるようにした。
1 - ②友だちとのやり取りで、嬉しさ、悔しさなどをたくさん味わうことで関わりを深め、それぞれの良さを認め合う。	C	子どもの良いところを都度に伝えるようにした。様々な感情を子どもと共有し、周囲へも発信した。友だちと関わる経験が十分できず、友だちの良さに気付きにくい子どももいた。
1 - ③自分が人からしてもらって嬉しいことは、人にも同じようにする体験を積み重ねる。	C	教員自身がしてもらって嬉しかったことを、子どもに伝えることで子どもも同じようにする姿が多かった。意識の育ちには個人差が大きいいため、教員が意識して働きかける必要がある。
2 - ①自分で興味を持ったことに積極的に取り組むことで、気付きや工夫を多く得る。	B	子どもが興味を持ったことに集中して取り組めるよう、時間・場所・環境を整えるようにした。子どもの発見や工夫した点はクラス全体に伝えるようにしてきた。
2 - ②遊びの中で多様な関わりを楽しみながら、様々な考えがあることに気付き、自分なりに考えるようになる。	B	子どもが、人には色々な考えがあることに気付けるような声掛けをした。年長では話し合いの中で意識できるよう工夫した。意識の育ちには個人差が大きいためフォローが必要である。
2 - ③砂・土・野菜栽培など園内の身近な自然に興味・関心を持ち、発見する喜びを味わう。	A	植物や野菜栽培を通して、興味・関心を持つ子どもが増えた。長…子どもの発見を大切に、一緒に考え調べる。中…野菜を収穫し食すことで食育にも繋がる。少…水やりをしたり、自ら確認したりするなど生長を喜ぶ姿が多かった。

## 4. 教員自己評価結果及び本園の今後の課題

	項目	結果	評価結果及び課題
1	保育内容の工夫	B	子どもに関わりながら、興味や関心を持っていることを知り、それが遊びに繋がるように工夫した。遊びや生活の中で友だち同士の関わりにおいて人の気持ちに気付けるように配慮した。
2	環境構成の工夫	A	子どもが自ら考えて遊びに取り組める工夫、じっくり遊びを継続できる環境を工夫した。生き物・植物など自然に興味関心を持てるよう環境を季節に応じて構成できるようにした。

3	幼児への対応 (幼児の理解)	A	遊びや生活を通して、子ども一人ひとりの実態を捉えて、個性を大切にしながら丁寧に関わるようにした。学年チームの教員同士が連携し子どもの情報交換することでそれぞれの良さを認めたりすることができた。
4	保護者への対応	B	降園時や“ゆとりの時間”に園での子どもの様子を伝えるように心がけた。家庭での様子を聞き、園での対応方法も伝えるようにした。声をかける機会に差が出来るしまうことが課題として残る。
5	研修と研究	B	日本保育学会や自身で関心のある研修会に参加することで理解を深められ、学びを多く得られた。園内研究では「園の教育課程作成」に取り組んでいるが、他の教員の意見や考え方を知る貴重な機会を得られている。一方多忙な生活の中で、園内研の時間を確保することが課題である。
6	安全管理	A	危険に繋がることは、子ども自身が意識できるよう考える場を作ったり、クラスで話し合ったりしてきた。危険な場所は視覚にも訴えるように工夫した。「遊具点検」などを定期的に行い、危険に繋がる故障箇所は早めに業者に修理依頼をしてきた。
7	職場環境 学年チームの関わり	B	学年の子どもたちに合った保育が進められるように、学年の教員同士で情報交換を多くし、こまめに話し合ってきた。働き方改革を意識して仕事に取り組んではいたが、時間の使い方には課題が残る。

○結果について

A	十分達成されている。
B	達成されている。
C	取り組まれているが、成果が十分でない。
D	取り組みが不十分である。

### 5. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者アンケートの結果と、教員各個人の自己評価から、おおむね目標は達成できていると考えられる。しかしながら、「重点目標」を達成するための具体的な取り組みについては、教員の意識にも個人差が見られ、年間での取り組みの仕方に改善が必要である。</li> <li>●保育内容の表現領域についても、園行事としての取り組みは努力して成果も上がっているが、日常の中で、子どもが自然に表現を楽しめるような工夫が必要である。</li> <li>●保護者連携については、コミュニケーションの仕方を工夫しているが、保護者の勤務等により顔を合わせにくい方も増えてきているため、個人差をどのように少なくしていくかが今後の課題である。</li> </ul>

### 6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
●重点目標1について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“思い合う心を育くむ”ことは、大切なことだが、具体的な取り組みについては、教員の中でも見解が様々で、成果としては課題が残る。令和2年度は「期案」の中に具体的に入れて、時期を見ながら取り組んでいかれるよう再度目標に上げる。</li> </ul>
●表現領域について、段階的に取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を描く機会、体を使って表現する機会を増やす。</li> <li>・学年共通で立案している「期案」の中に、具体的に入れ込み、学年（年齢）に応じてスモールステップで取り組んでいかれるようにしていく。</li> </ul>
●保護者との連携に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とのコミュニケーションについて、様々な機会を使い、園での成長の姿や心の動きを伝えたり、家庭での変化などを聞いたりしていく。(特に通常の登降園で顔を合わせられない方は意図的に機会を作るようにする)</li> </ul>
●「教育課程」の編成を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研究で継続して取り組んでいるが、年間計画を作成し、計画に沿って進めていかれるように努力する。学年の期案振返りの機会を有効に使うようにする。</li> </ul>